

★ 授業のヒント

じゅ ぎょう

学習者が興味や関心を持つと、やる気が出て自然とその結果もよくなるものです。今回は、授業の中で、学習者の動機づけをするためのアイデアを紹介します。

テーマ 動機づけ

どう き

目的 もく じ	学習者に興味・関心を持たせ、学習の動機づけを高める
学習者のタイプ がく しゅう しゃ	初級～上級
クラスの数 にん すう	何人でも

◆動機づけ

どう き

皆さんの学習者は、どんな時に、やる気が出ますか？いつもやる気満々ですか？

Zさんは、普段はまったくやる気がないのに、試験の前だけは真剣に勉強します。Yさんは、いつもは指名されるまで発言しないのに、今日は日本人のお客さんが見学に来ているので、自分から積極的にいろいろ質問しています。皆さんの学習者にも、このような人がいますか。

Zさんにとっては「試験」が、Yさんにとっては「日本人のお客さん」が、普段とはちがって真剣に勉強する、積極的に質問する理由になっているようです。

学習者がやる気を持って積極的に学習に取り組んだほうが、学習の効果が高くなります。

◆自ら進んでやろうと思わせるために

みずか すず おも

動機づけは、試験や就職だけではありません。「ほめる・励ます」「クラスメートの仲間意識を育てる」「学習者が興味を持つものを使う」など、学習者の興味とやる気を引き出し、学習効果を高め、授業を活性化する方法や工夫については、『日本語教育通信』第56号で紹介しました。

今回は、毎日の授業でどのようなことができるのか、外国人日本語教師の方たちの具体的な取り組みを紹介したいと思います。

日本語国際センターの教師研修で、さまざまな国からの研修参加者が一人一人教師になって模擬授業をしたときに紹介されたアイデアです。

なお、〔 〕は行動を、「 」はことばで言う内容を表しています。

◆文法の導入で

ぶん ぽう どう にゅう

次の2つは、どちらも「初級後半レベル」のクラスでの文法の導入のアイデアです。

ーアイデアその1ー

授業の目標：「～んです」の文型を理解し、使えるようになる

教師：〔腕に包帯を巻いて教室に入る〕
〔痛そうな表情をしながら、全員の前に立ち、学習者の反応を見る〕

学習者：「先生、どうしましたか？」

教師：「みなさん、私の手を見てください。どうしたのか知りたいですね。このような場合は、『どうしましたか』ではなく、『どうしたんですか』と言います。」

〔どうしたんですか〕の文字カードを見せる



(インドネシアのEさんのアイデア)

学習者は皆、包帯姿の教師の姿にびっくりするとともに、このとき日本語でどう聞いたらいいのか知りたいという気持ちになったことでしょう。

ーアイデアその2ー

授業の目標：行為の強制を「使役」の文を使って言い表すことができる

教師：〔すごく汚れた靴下を手にとって〕「これは何ですか。」

学習者：「靴下です。」

教師：「はい、そうです、靴下です。私のです。汚れていますね。くさいです。私は2週間もはきました。じゃあ、Bさん、ここに来て、洗濯してください。」

〔水が入った洗面器と洗剤を置く〕

Bさん：〔洗面器に洗剤を入れて、靴下を洗う〕
 教師：「洗濯していますね。」
 〔私はBさんに靴下を洗濯させましたと言いつつ、文字カードを黒板に貼る〕



(カザフスタンのGさんのアイデア)

Bさんが嫌そうな顔をしていたのは言うまでもありませんが、クラスの皆が活動に引きつけられ、おもしろそうと感じると同時に、「～させる」の意味がはっきりとわかったことで、学習者の動機づけがより高まったと言えるでしょう。

◆活動を始める前に

次は、中級レベルの「読解」の授業案ですが、すぐにテキストを読ませないで、その前に、テキストの内容と関連のある活動をして動機づけしようとしています。

ーアイデアその3ー

授業の目標：「左利き」についての読み物の中から必要な情報を早く読み取る

教師：〔左利きのいろいろな有名人の写真を見せる〕
 「この人は誰ですか。」「どうして有名ですか。」「この人たちの共通点は何だと思いますか。」
 学習者：〔写真を見ながら、教師の質問に答える〕
 教師：〔学習者の反応を見て、正解を教える〕
 〔文章のキーワード「左利き、利き手、右利き」を黒板に書く〕



(グルジアのTさんのアイデア)

このときは残念ながら、「正解」が出ませんでした。学習者は皆、写真の有名人の共通点が何か必死になって当てようとして、クラスがすごく盛り上がりました。

◆やるべきことをはっきり示す

最後にもう一つ、中級の「聴解」から紹介します。

ーアイデアその4ー

授業の目標：聞いた話を切り出したり、相手からの情報に反応したりするときに使う表現を使えるようになる

教師：「次のような場面を想像してください。今から皆さんは偶然にすごく面白い話を聞きます。誰についての噂をしているか推測してください。そして、聞きながら、特に噂を始める表現と、反応する表現に注意してください。」〔ビデオを再生する〕

学習者：〔ビデオを見て、推測する〕

(ロシアのAさんのアイデア)

このときのビデオは隣のクラスの学生が出演した自作の教材でした。自分たちの知っている人が噂話をしているという設定だけで、すでに学習者は興味津々でそのビデオを見ていましたが、それだけではなく、教師はここで、学習者がすべきことを明確に指示しています。活動の目的を明示すること、どのような方法を取ったら達成しやすいかを示すことは、学習者を動機づけるために有効な方法の一つです。また、成功することによって自信がついて、さらに動機づけが高まることにもなります。

誰にでも効く万能の方法はありませんが、自分のクラスにはどんな方法が合っているのか、日頃からいろいろ試してみても見つけていくことが大切でしょう。

参考

国際交流基金（2006）「やる気を引き出す授業のテクニック」（『日本語教育通信』第56号「授業のヒント」）
http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/tsushin/56-59_pdf/tushin56/nk56_06-07.pdf
 ドルニエイ、ゾルタン（2005）『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』（米山朝二・関昭典訳）大修館書店

このコーナーの担当者：有馬淳一（日本語試験センター設立準備室研究員）、木田真理（日本語国際センター専任講師）
 読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗談などぜひお寄せください。